

# 憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2024年10月31日(木)

NO. 1525号

本号3頁

## 総選挙 国民の裏金問題・「政治とカネ」問題での怒りが、 与党の過半数割れ、改憲派が3分の2割れに追い込む!!

### 今回の総選挙、最大の争点は派閥の裏金問題・「政治とカネ」問題。

石破首相は、国会での与野党の議論の重要性を訴えていましたが「変節」、結局80分の党首討論を開くのみで、それまで発言を撤回し、就任わずか8日後に「ご祝儀相場」を当て込んで解散・総選挙を実施しました。最大の争点、そして最後まで尾を引いたのは、派閥の裏金問題・「政治とカネ」問題でした。総選挙の最初の演説で、石破氏は「二度とないように、深い反省のもとにこの選挙に臨む」と発言しましたが、実際にとった行動は一見そのように見せかけ、実際は逆方向でした。

自民党は、派閥裏金事件に関係した国会議員らのうち非公認は、萩生田光一元政調会長ら6人に、菅家一郎、細田健一両氏ら6人を新たに加え、計12人としました。ただし、当選すれば公認すると、とんでもない条件を付けました。また、政治資金収支報告書に不記載があった議員については、比例代表との重複立候補を認めないとしました。そして、党幹部や閣僚の非公認候補の応援演説を禁止しましたが、高市氏と小林鷹氏は応援演説を繰り返しました。

そして、23日、「非公認候補が代表を務める政党支部に自民党本部から2000万円支出」と、しんぶん赤旗が報じました。これに対して、石破氏らは「党勢拡大のための活動費」として支給したとし、「政党支部向けであり、非公認候補に出したものではない」と、法的に問題なしと強調しました。しかし、これが自民党にとどめを刺す、大問題に発展しました。一方、萩生田氏など、自民党が支援したはずの非公認候補から返金表明が相次ぎました。

### 総選挙の結果、国民の怒りが与党過半数割れに追い込む

総選挙の結果、自民191(-65)、公明24(-8)で与党215議席でした。野党は、立民148(+50)、維新38(-5)、共産8(-2)、国民28(+21)、令和9(+6)、その他参政党3、保守党3、社民1等で250議席でした。

自民党は公示前勢力から56議席減の191議席となり、公明党も石井代表が落選するなど、8議席減らし24議席となり、与党で総定数465の過半数(233議席)を下回りました。

立憲民主党は公示前から50議席増の148議席となり、勢力を大きく拡大。国民民主党も4倍増の28議席に積み増しました。日本維新の会は大阪全19選挙区で議席を獲得しましたが、関西以外の選挙区で苦戦を強いられ、6議席減の38議席となりました。れいわ新選組は6議席増の9議席、共産党は2議席減の8議席、社民党は公示前と同じ1議席、参政党は2議席増の3議席、保守党が3議席を獲得しました。

また、裏金議員の当選率は、17勝28敗でした。非公認となった12人のうち3人が不出馬、9人が無所属で選挙に挑み、当選は平沢勝栄氏と萩生田光一氏、西村康稔元のみであとは落選。また、牧原秀樹法相は小選挙区、比例でも落選、農相の自民・小里泰弘氏も落選しました。

さらに、統一教会との接点が判明した牧原法相が選挙区と比例で、前文科大臣森山正仁氏が選挙区で敗れました。

大敗を受け、開票翌日、小泉進次郎選対委員長は首相に辞表を提出し、受理されました。

### とどめを刺した裏金非公認候補党支部に2000万円振り込み「しんぶん赤旗」報道

自民党派閥の裏金事件で非公認となった候補が代表の党支部にも党本部から総選挙公示直後に政党助成2000万円が振り込まれていたことが23日、しんぶん赤旗で報じられました。裏金づくりという組織的犯罪に無反省な自民党の姿が浮き彫りとなりました。

石破氏は、政党交付金用の口座に総選挙の公示直後に振り込まれていたと。「党勢拡大の活動費ということで、選挙には直接は使っていない。事務所の職員の給与や事務所の費用など間接的には選挙に使っているといわれれば、そうかもしれないが…」と説明しました。

結局、共産党の田村委員長は、「しんぶん赤旗」が選挙期間中、自民が非公認とした「裏金候補」側に2千万円を支出した問題を報じたことが世論に影響したとし、「自民党を追い詰めた」と胸を張ったように、与党へのとどめを刺しました。

## 石破首相 自公の少数与党で政権運営へ

1) 自公だけでなく、さらに野党との連立拡大政権はあるのか。

自民党と公明党の連立与党が過半数の割れとなれば、野党が連立に加わらなければ、政権は少数与党に転落する。自民党が野党と連立を組むことはありえない話ではない。自民党は、自分たちが下野しないためなら1994年の自社さ連立政権のような連立も厭わない性質を持ち合わせている。政策の近い保守系の日本維新の会、国民民主党などが候補に挙げられ、既に模索段階に入っていると思えます。

一方で、自民党の裏金問題への風当たりが想像以上に厳しく、選挙であれだけ批判していた野党が連立を組むには抵抗があります。国民は違和感が生じ、自民党に協力することは自滅行為になる。ただ政権入りするメリットもあります。与党の予算案に賛成までしていた国民民主の方が自民党との距離は近く、可能性は高いとみられます。

結局28日、石破氏は「厳しい結果」は国民の「叱責」と受け止めていると述べ、自民党が「心底から反省」する必要を強調した。そのうえで、「職責を果たしてまいりたい」と述べ、続投する意向を表明した。連立与党が過半数を割った状態での政権運営については、公明党以外との連立を「いまこの時点で想定しているわけではない」と話しました。

今後の政権運営については、「今この時点で（他党との）連立は想定しているわけではない」と答えたいと、「それぞれの党の主張に対して寄せられた、国民の共感や理解を謙虚に受け止め、取り入れるべきは取り入れることに躊躇があってはならない」と発言しました。

なお、過去には少数与党政権がありました。1994年羽田内閣は少数与党となり、結局、在任64日で退陣やむなきに至りました。

2) 石破退陣なら、誰が自民党総裁になるのか。高市氏か。

大敗を受け、開票翌日、小泉進次郎選対委員長は首相に辞表を提出し、受理されました。

石破首相退陣となれば、次は誰が総裁になるのか。最有力は高市早苗前経済安保相。一部には、岸田文雄前首相の再登板や林芳正官房長官などを推す動きもあるようです。

## 憲法改正が「冬の時代」へ

### 改憲勢力後退、石破茂首相への不信感も根強く **産経新聞報道**

今回の衆院選で、憲法改正に前向きな自民党や公明党、日本維新の会、国民民主党の勢力が発議に必要な3分の2(310議席)を下回り、改憲論議は「冬の時代」に入った。石破茂首相(自民総裁)は来年の結党70年を念頭に憲法改正へ意欲を示すが、本気度をめぐり維新や国民民主の不信感は根強い。衆院選大敗の責任論が噴出する中、首相が党内で求心力を高められるかも不透明だ。

### 改憲論議の可能性低下

「結党70周年を控える中、党是である憲法改正を前に進めていく。建設的な議論を行い、国民的な議論を深めて頂くべく、精力的に取り組んでいく」首相は衆院選から一夜明けた28日の記者会見で、改憲への意欲を口にした。ただ、衆院選では党内に護憲派を抱える立憲民主党が大幅に議席を増やしており、改憲論議に応じる可能性はこれまで以上に低下しそうだ。

憲法改正で足並みをそろえてきた維新や国民民主の自民に対する不信感も深刻だ。先の通常国会まで「3分の2」の勢力を持っていたにもかかわらず、自民が牽引力を発揮しなかったためだ。

実際、今年の通常国会の衆院憲法審査会では、改憲勢力だけで緊急時の国会議員任期延長を可能とする改憲の条文化を先行させる意見もあったが、自民は政治資金規正法改正の審議を優先。閉会中審査も開かれず、議論は停滞した。

衆院選で議席を4倍に増やした国民民主の玉木雄一郎代表は28日、記者団に「自民は選挙で『改憲、改憲』と言っているが、本当にやる気があるのかどうか。もっとまじめに憲法改正に向き合っ

いただきたい」と強調。維新幹部は「自民は単独過半数も失った。寝言にしか聞こえない」と首相を突き放した。

## 党内結束も不透明に

首相が党内をまとめられるかも見通せない。党首として与党の過半数割れを招いた責任を問う声は高まっている。また、首相が閣僚や党幹部に先の総裁選で支援を受けた推薦人らを重用したことも党態勢の構築を困難にしている。

自民重鎮は「対立構造を抱え続けるわけにはいかない。ノーサイド（融和）を実現できなければ来年の参院選は勝てない」と指摘。野党時代の平成24年に策定した党憲法改正草案作りが政権奪還への原動力になったと振り返った上で「傷は憲法で癒やして一つにまとまるべきだ」とも強調するが、実現は簡単ではなさそうだ。

## 陸自オスプレイが与那国で地面に接触、機体損傷 陸自オスプレイ全17機が飛行停止

日米共同統合実動演習「キーン・ソード25」で陸上自衛隊の輸送機V22 オスプレイが27日午前11時40分ごろ、陸自与那国駐屯地（沖縄県与那国町）で、離陸直後に機体の一部が地面に接触し、損傷しました。事故を受けて陸自は全17機の飛行を見合わせました。

パイロットなどの搭乗員5人を含む計16人が搭乗し、けが人はいませんでした。同機は「防災訓練」として、米軍オスプレイとともに、住民や観光客を島外へ避難させる訓練や、負傷者を搬送する訓練を実施。日米の共同統合演習「キーン・ソード」の一環で与那国島に飛来していました。米軍と自衛隊は、今後も与那国島への飛来を狙っているとみられます。

防衛省によると、与那国駐屯地でV22が離陸直後に機体が左右に揺れて姿勢が不安定になり、左翼の下部が地面と接触。機体の一部が損傷し、現在は同駐屯地内にとどまっています。27日、陸自は調査組織を設置し、原因を調査しているとしています。

目撃した男性によると、V22が午前10時すぎに駐屯地内のグラウンド付近に着陸し、11時40分ごろに離陸しようとしたが、バランスを崩しながら高度を下げ、ふらふら揺れて着陸しました。男性は「墜落すれば島民に被害が出る。いつ落ちるか分からない欠陥機の飛行に憤りを覚える」と語りました。

沖縄県の玉城デニー知事は28日、県庁で記者団の取材に「大変、遺憾極まりない」と批判しました。「キーン・ソード」でのオスプレイ使用の自粛を申し入れていたにもかかわらず、こうした事態になったと指摘。県民はオスプレイ配備反対だと述べ、「オスプレイはそもそも欠陥機で、どこでどういう状況が起こるかかわからない」と強調しました。



## 8年前の女子中学生殺害福井事件 再審開始へ

38年前、福井市で女子中学生が殺害された事件で、殺人の罪で服役した59歳の男性の再審＝裁判のやり直しを認めた名古屋高等裁判所金沢支部の決定について、検察は異議申し立てをしないことを明らかにしました。これにより、男性が最初に再審を求めてから20年を経て、やり直しの裁判が開かれることになりました。

1986年に中学3年の女子生徒が福井市の自宅で殺害された事件で殺人の罪で懲役7年の判決が確定して服役した前川彰司さん（59）について、名古屋高裁金沢支部は今日23日、再審を認める決定を出しました。決定では、有罪の決め手とされた目撃証言について、新たに検察から開示された証拠などをふまえ、「捜査機関が関係者に誘導などの不当な働きかけを行って証言が形成された疑いが払拭（ふっしょく）できず、信用できない」などと判断しました。

この決定について検察は28日、異議申し立てをしないことを明らかにしました。判断の理由について名古屋高等検察庁の畑中良彦次席検事は「決定書の内容を子細に検討し、証拠関係を総合的に考慮した結果、異議申し立てはしないと判断した。今後の手続きは再審公判で行うことになり、適切に対応したい」などと説明しました。